

令和 6 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4 年間の目標 (令和 6 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 ( 3 月 6 日実施)	総合評価（ 3 月 26 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①主体的・対話 的で深い学びを 実現するととも に、 I C T の活 用を通して基礎 学力を伸ばす。 ②「福祉の心」 を育み、他者と 協働して地域社 会に貢献し、共 生社会の実現に 資する人材を育 成する。	①ICT の活用を 通して、生徒が 学習に対して主 体的に取り組み 表 現 す る な ど の、深い学びの 方策を検討し、 構築する。 ②福祉に関する 教育活動をさら に充 実 さ せ、 「他者を思いや る力」「他者か ら学ぶ力」「他 社と協働して地 域社会に貢献す る力」を身に付 けさせる。	①ICT 環境を整備 し、校内外の教育 資源や加-ムﾌﾞｯｸを 積極的に活用し、 基礎学力を伸長さ せ、表現力を育成 する教育方法を検 討し構築する。 ②専門福祉、総合 的な探究の時間、 選択科目、課外の ボランティア活動 など、福祉に関す る教育活動の機会 を多く設定する。	①加-ムﾌﾞｯｸを有 効に活用する環 境整備を進める ことができた か。加-ムﾌﾞｯｸを 活用することに より、表現力等 を育成すること ができたか。 ②生徒が福祉に 触れる機会を多 く設定すること ができたか。デ イサービスセン ターとの交流機 会を増やすこと ができたか。	①一 時 貸 し 出 し 用、長期貸し出し 用、職員用と校内 の加-ムﾌﾞｯｸの整備 を行った。総合的 な探究の時間を中 心に調べ学習、ス ライド作成、発表 の流れを実践し た。 ②デイサービスセ ンターのランチ交 流等、コロナ下で 制限されていた交 流が復活し、16 名の生徒が参加し た。1 年時の総合 的な探究の時間 では、引き続き全 生徒が福祉体験を 実践した。	①校内のプロジェ クターやスクリー ン等の劣化が各教 室で見られるよう になったため、修 理費の確保が課題 である。来年度以 降に各教室に電子 黒板が配置される こともあり、その 活用方法について 検討する必要がある。 ②様々な課題があ ると考えられる が、決められた時 間内での交流によ らず、校舎内をデ イサービスセンタ ーの利用者さんが 活用するなど、自 然な形で交流が できるようになる といい。	① I C T 利活用が進んで おり、調べ学習やグルー プ学習のプレゼンテーシ ョンを行わせるなど表現 力を育成している。ま た、クロームブックの活 用により、クラスルーム での課題の配信、提出が 行われ、スムーズな学習 活動が行われている。 ②デイサービスセンター との交流では、文化祭、 ランチ交流、七夕飾りつ けなどが行われ、生徒に とお年寄りとの触れ 合いがあり、コミュニケ ーション力を高めること ができています。	① I C T 利活用に関しては、ク ロームブック、プロジェクタ ーの活用により、生徒の深い学び につながる授業ができています。 ②綾瀬西デイサービスセンター との様々な交流により、「他者 を思いやる力」「他者から学ぶ 力」「地域と協働して地域社会 に貢献する力」を育てることが できた。今後は、綾瀬西デイサ ービスセンター、綾瀬市、地域 の団体等との交流をさらに活性 化させる必要がある。	①組織的な授業改善を今後も継 続し、具体的な I C T 利活用の 方法について、検討を続ける必 要がある。また、導入予定の電 子黒板について、即時に効果的 な活用ができるように準備を始 める。 ②綾瀬西デイサービスセンター の利用者の方の授業見学を 2 月 に試行し、好評であった。4 月 から計画通り実施していく。
2	生徒指導・支援	①生徒の自己指 導能力と他者を 尊重する姿勢を 育成し、問題行 動の未然防止を 図る。 ②生徒の特性を 多 面 的 に 理 解 し、生徒の特徴 や教育的ニーズ に即したより適 切に必要な支援 体制の充実を図 る。	①生徒の自己指 導能力と他者を 尊重する姿勢を 育成 する た め に、日常生活・ 集会・学年での 講演会等あらゆる 場面で他者を 意識した行動・ 言動の理解・浸 透を図る。 ②SC、SSW や 外部機関との円 滑な連携を図る とともに、適切 な 連 携 先 の 周 知、共有を行 い、職員全体で 活用できる教育 相談体制の充実 を図る。	①学校生活にお けるルールを浸透 させるとともに、交 通安全教育につ いては、日ごろのク ラスでの呼びかけ を含めた教育活動 をより積極的に実 施する。 ②SC、SSW の役 割について周知を 行うとともに、活 用できる外部機関 の 情 報 整 備 を 行う。	①学校生活にお いて、子どもた ちに自らを律し て行動させ、指 導件数が減って いるか。交通事 故の件数が減っ ているか。 ②SC、SSW と の 情 報 共 有、 ケース会議、フ ードバンクを含 めた外部機関と の連携などを実 践できたか。	①令和 6 年度の 10 月 15 日時点での指 導件数は 44 件であ り、令和 5 年度の 61 件より若干改善 している。ただし、 令和 5 年度の件数は 細かな指導を積み重 ねた結果の可能性も あり、一概に件数が 微減していることを 好材料と取れ得ない 側面もある。 ②SC、SSW と教育 相談担当で木曜日 1 校時に情報共有の場 を設定し連携を取 っている。 ケース会議は 3 件実 施し該当生徒への対 応について協議して いる。 フードバンクは 1 学 期に 1 回周知も兼ね て実施した。 支援学校のセンター 的機能を活用し、え びな支援の巡回相談 を依頼している。 児童相談所には、 19 件繋がり支援を 行っている。	①遅刻件数、欠席 数をはじめ授業へ 向かう姿勢に未成 熟なところもある ため、繰り返し粘 り強い指導を行 う。一方で、盗難 被害も頻発してい るため、授業時間 の巡回指導の徹底 をする。 ②SC、SSW の勤 務日数に対し、対 応するケースが多 い。その上、対応 に苦慮するケース が多いため、勤務 時間の管理が難し い。 フードバンクの実 施については、今 後も効果の検証等 が必要である。	①ネット犯罪等の防止教 育が、携帯電話教室、L H R、情 報 の 授 業 な ど様々な機会で行 われており、生徒 を守ることで きている。また、 授業へ向かう姿 勢や特別指導件 数などの課題に 対して、職員が 協働して対応を している。 ② S C、S S W と連 携し、教育相談 の体制が整って いる。特に、生 徒にとって分か りにくい S C と S S W の役割 の違いがよく伝 わっている。 フードバンクを 継続して実施 するとよい。	①様々な課題を抱える生徒が多 く在籍する本校では、職員によ るチーム指導を続けており、課 題の解決につなげることができ ている。また、S C、S S W や 外部機関との連携も有効であ り、今後も続けていく必要があ る。 ②教育相談において重要な生徒 個々の特性の理解をチームで行 うことにより、個に応じた支援 を行うことができた。S C、S S W、外部機関との連携を強化 し教育相談体制を充実させてい く。	①特別指導の事前防止、交通安 全、ネット犯罪等の防止に重点 を置いた生徒指導体制を充実さ せていく必要がある。職員への 負担を軽減させることも重要な 課題であり、指導に係る業務を スリム化させる方策を検討す る。 ②支援教育グループを中心に、 教育相談体制の整備を進める。 特に、今年度を実施した S C による人権研修の成果が高かつ たため、次年度も続けて実施し ていく。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①基本的生活習慣を確立するとともに基礎学力を伸ばし、個性を伸ばすキャリア教育を推進する。 ②通級による指導を実践し、特性による学習上及び生活上の困難の改善、克服をめざす。	①生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、社会的・職業的な自立に向けて、主体的に取り組めるキャリア教育を推進する。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制を利用し、生徒一人ひとりに応じた支援の定着を図る。	①-1 学年進行に適した進路支援ワーク・ツール等を活用し、生徒の主体的な学びを推進する。 ①-2 外部連携を強化しながら進路支援プログラムの充実を図り、すべての生徒がより良い進路選択ができるように支援する。 ②職員全体の情報共有をはかるとともに、SC、SSWと連携した支援を行う。また、「NISE 学びラボ」を活用する。	①-1 進路支援ワーク・ツール等を活用し、主体的な学びを推進することができたか。 ①-2 外部連携を積極的に推進し、生徒の進路選択につなげる活動ができたか。 ②職員、SC、SSW の情報が共有されているか。「NISE 学びラボ」が活用されているか。	①-1 1 学年は段階的に進路意識を高める活動、2 学年は進路比較ワーク等、3 学年は進路活動の振り返りと発表を実施した。 ①-2 2 学年で校外キャリア教育を実施し、社会性を養い早い段階から就職意識を高めることに繋げた。高大連携や企業連携を拡大し生徒の進路選択の幅を広げることができた。 ②生徒の面談終了後に情報共有を行い、円滑に実施している。必要に応じて管理職への報告も実施している。	①-1 生徒がいつまでに、どのような進路意識を獲得しておく必要があるのか整理し、効果を検証しながら進める。 ①-2 各連携機関から得た進路情報や各種プログラム等について、より生徒の参加意欲を引き出す広報活動を行う。 ②課題が表面化してくる生徒のクラスが偏っているため、副担任や学年主任等も交えた情報共有を実施する。「NISE 学びラボ」については、職員への周知が改めて必要である。	①-1 ゴールから逆算して、先を見た進路指導が有効である。 ソーシャルスキルトレーニング、スタディサプリ for SCHOOL、進路発表会など様々な取り組みが成果を上げている。 ①-2 校外キャリア教育では、2 年生の段階で就職に対する意識を高めることができています。また、高大連携、企業連携により、生徒に有益な情報提供ができています。 ②通級による指導を行うにあたり、SC、SSW との連携が取れている。チーム支援も効果的である。	①-1 様々なキャリア教育の取組により、生徒の個性を尊重し、社会的・職業的な自立に向けた指導、支援を行うことができた。一部の生徒に自身の進路希望を決める時期が遅くなることがあり、すべての生徒に対し、キャリア教育に関する力を適切な時期に育てる必要がある。 ①-2 高大連携、企業連携がうまく機能しており、今後も継続していく。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制が整っている。生徒一人ひとりに応じた支援により、生徒の力を育てることができた。	①-1 すべての生徒が自身の進路選択ができるように、年間のキャリア教育計画をブラッシュアップさせる必要がある。 ①-2 高大連携、企業連携等の外部機関とのつながりの幅を広げる必要がある。 ②通級による指導、支援の体制が整っており、少しずつブラッシュアップさせていく。
4	地域等との協働	①地域等との持続可能な協働活動を推進し、未来社会で生きる必要な力の育成と生徒活動の質の向上を図る。 ②PTA や地域等と連携して活動の場を充実し、地域社会と協働する意識を高める。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成する活動を行い、地域と共に歩む学校としての活動を行う。 ②PTA や綾瀬市など地域との連携を図り、生徒が参加、協働できる場の実現を図る。	①文化祭などの学校行事において地域と協働し、奉仕活動を行うなど、生徒が主体的に地域と共に歩んでいく自覚を持たせるようにする。 ②PTA や綾瀬市自治体など地域と連携・協働が可能な行事の見直しを行う。	①文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を活かし、地域に対して働きかけを行うことができたか。地域と共に行う活動を実現できたか。 ②PTA や地域と協働する活動を校内で整理し、実現することができたか。	①文化祭において地域企業や綾瀬市役所などの団体との連携を図り、ともに行事を行うことができた。生徒の意欲を引き出す支援を行った。 ②自治体などと協働した行事について整理・検討し、学校行事ではPTA との連携、防災訓練では綾瀬市との連携を図った。2 月にはティ・ビ・ス・タへの施設開放を行った。	①生徒が主体性をもって行事に取組むよう、参加方法など関わり方の検討が必要である。 また、一年限りでなく継続的に地域との関りを育む活動の検討も必要である。 ②学校と地域やPTA との協力関係を深めることができた。生徒が参加できる機会を拡充できるよう図っていく。施設開放日が継続できるよう計画する。	①文化祭での地域との交流は、生徒の自主性やコミュニケーション力を高めている。 ②PTA 活動により、生徒の学校生活が充実している。今後は、PTA だけでなくスクールボランティアの活動を活発化させることができればよい。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成することができた。また、文化祭などを通じて、地域と共に歩む学校としての活動を行うこともできた。 ②PTA や地域等と連携して、生徒の活動の場を充実させ、地域社会と協働する意識を高めることができた。	①様々な生徒会活動等により、地域との交流を深めることができていますが、今後も少しずつ交流の機会を増やしていく必要がある。 ②PTA や地域の団体との交流が定着してきている。幅を少しずつ広げていく必要がある。
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会委員等、地域の多様な人材の意見を集め、社会に開かれた安全で安心な学校づくりをめざす。 ②組織的、計画的、継続的に校内研修を行い、教員の資質と学校の教育力の向上をめざす。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会を活用し、教育活動の充実につとめる。 ②教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施する。	①学校運営協議会や学校設置部会において、意見聴取や情報収集の機会を設け、整理し、改善につなげる。 ②研修の成果から、重点的な課題を絞り込み、共有することにより、教職員のスキルを向上させる。	①学校運営協議会や学校設置部会からの提案を整理、共有、実現することができたか。 ②支援教育や人権教育に係る重点課題を共有し、生徒への支援教育を充実させることができたか。	①学校運営協議会でのご意見をまとめ、記録し校内で共有することができた。 ②夏季休業中に職員対象の福祉研修を実施した。研修をもとに、1 学年の総合的な探究の時間で福祉教育を実施し、探究活動を行った。AED 講習も夏季休業中に2回に分けて実施した。 人権研修は、11 月にLGBTQ をテーマに実施した。	①いただいたご意見を実現していけるよう、各グループや地域との連携を図っていく。 ②福祉研修、AED 講習などさまざまな研修が同時期に予定されてしまうため、人権研修の時期設定が難しい。 人権研修や支援教育に関する研修の題材について、教職員からのニーズを集約する。	①地域とのつながりをコーディネーターの協力を得て活性化させることができる。地域には、学校との交流を望んでいる方がいる。 ②SC によるLGBTQ に関する職員研修は、有効な研修であり、今後も続けてほしい。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会を活用し、教育活動の充実させることができた。 ②教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施することができた。	①今年度の学校運営協議会委員からの意見を今後の学校経営に生かしていく。 ②支援教育や人権教育の職員研修が充実している。今後、さらにブラッシュアップしていく。